

授業科目名	経営戦略論		
担当教員氏名(助手氏名)	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	戦略サファリ、 ポジショニング・スクール、 アントレプレナー・スクール、 ラーニング・スクール、 カルチャー・スクール		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	経営情報学専攻の基幹科目として、経営戦略論の理論を習得する。本授業の目的は2つある。第一に、受講者が代表的な経営戦略論の理論らの相互関係について理解できることである。第二に、受講者がこれらの理論および枠組みを活用し、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	本授業ではHenry Mintzbergらの『戦略サファリ』を教科書として使う。経営戦略論においては多様なパースペクティブが存在するが、それらの相互関連性を理解し、現実において企業の経営戦略にどのように実践されるかを理解できる。		
成績評価の方法	グループとして各章の経営戦略論についてプレゼンテーションを行い、理論の理解度や質疑応答などをもとに総合的に成績評価する。		
テキスト	Henry Mintzberg et al. 『戦略サファリ第二版』 東洋経済新報社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	会計情報論		
担当教員氏名(助手氏名)	五百竹 宏明		
研究室の場所	広島キャンパス 1726研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前予約を取る）		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	会計情報、意思決定支援機能、契約支援機能、実証研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	会計情報のもつ意思決定支援機能と契約支援機能について、理論的研究及び実証的研究の成果をもとに理解を深める。		
授業の内容	会計情報に関する代表的な理論を検討する。 会計情報の有用性に関する代表的な実証研究論文について下記項目を中心に検討し、理解を深める。 仮説、使用データ、検証モデル、統計手法、結果と解釈		
成績評価の方法	授業での発表（70%）と最終講義時に行うquiz（30%）で評価する		
テキスト	未定		
参考文献	講義の進行に応じて、随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	会計学に関する（学部レベルの）基礎知識があることを前提に講義を進める。また、取り上げる論文の半数以上は英語文献である。従って、これらにある程度精通していないと単位取得は困難である。		

授業科目名	経営情報論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡村 雅仁		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の3次限。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は事前に予約すること。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成して次回の授業開始時に提出し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	開示システム, 会計情報, 経営分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	企業情報のなかで、利害関係者に開示される会計情報をとりあげて、開示システムや情報の収集、加工、活用について習得することを目標とする。また、今後の企業情報開示(ディスクロージャー)に関わる諸問題を考察する。本科目は、基幹科目である。		
授業の内容	企業は、情報システムを利用して膨大なデータから有用な情報を正確かつ迅速に抽出、加工して経営に反映させるとともに、顧客、債権者、株主などの利害関係者に対して適切な情報を発信する必要がある。規制緩和の進展により海外の企業がわが国に進出する一方で、わが国企業が海外に進出するメガ・コンペティション(大競争)の時代が到来した。国際的な大競争が激化の一途をたどるなかで、内外の企業情報の収集、加工について講義するとともに、経営比較分析を行う。		
成績評価の方法	最終レポート、プレゼンテーションの内容により評価する。		
テキスト	主として配布資料による。		
参考文献	授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	ビジネスモデル研究		
担当教員氏名(助手氏名)	姜 判国		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業では、発表、討論を行い、必要に応じて、資料や映像を活用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	ビジネスモデル創出、エクセレント・カンパニー、コア・コンピタンス、コア・バリュー、コア・人材組織、コア・プロセス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	急激な経済環境の変化のなか企業が存立し成長を続けるためには 今までの量的成長から脱して、より高い生産性と競争力を土台に再跳躍できる新たなビジネスモデルが切に要求されている。このような状況のなかで、本講義では ビジネスモデル理論の学習とともに卓越な競争優位を保ち続けている国内外のエクセレント・カンパニーの事例研究を通じてその企業を支える革新的なビジネスの仕組み(ビジネスモデル)は何であるかをビジネスモデルの4つの要素(コア・コンピタンス、コア・バリュー、コア・プロセス、コア・人材組織)に基づいて考察し、競争に勝ち抜くための新しいビジネスモデルを見つけ出す。激しい生存競争のなかで企業家として競争に勝ち抜くための新しいビジネスモデルを創り出す力量を養うことを目標とする。		
授業の内容	科目オリエンテーション 第1部 ビジネスモデル論の展開(講義・討論) 第1章 経営パラダイムの転換とビジネスモデル論 第2部 新しいビジネスモデルの探索と展開 第3章 新しいビジネスモデルの探索と選別 第5章 IT産業における新ビジネスモデル 第7章 プロビット・アール・マップによる新ビジネスモデル展開 第3部 ビジネスモデル事例研究(発表・討論) 第9章 グーグルのビジネスモデル 第11章 アップルのビジネスモデル 第13章 JRのビジネスモデル 第15章 ベネッセビジネスモデル 第2章 ビジネスコンセプトとビジネスモデル 第4章 在来産業における新しいビジネスモデルの探索と選別 第6章 ビジネスモデル創出としてブルーオーシャン戦略 第8章 バリューチェーンの選択による新ビジネスモデル展開 第10章 ミクシィのビジネスモデル 第12章 サートのビジネスモデル 第14章 セコムのビジネスモデル 第16章 セコムビジネスモデル		
成績評価の方法	課題レポートや発表により総合的に評価をする。		
テキスト	*DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部『ビジネスモデル戦略論』ダイヤモンド社、*寺本義也・岩崎尚人『ビジネスモデル革命』生産性出版、Bill Gates(原著)、*ゲイリー・ハメル『リーディング・ザ・レボリューション』鈴木主税・福島俊造(訳)日本経済新聞社、*大原進(翻訳)『思考スピードの経営』日本経済新聞社、M.Treacy& F.Wiersema *『ナンバーワン企業の法則』大原進 訳 日経ビジネス、 *Burgelman, R. A., 『Strategic Management of Technology and Innovation』, Fourth edition, McGraw-Hill, Boston, 2004		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	* 授業の準備や発表の用意を誠実にし、授業に参加すること。 * 最近、注目を浴びる企業の戦略的特徴などに興味をもって常にチェックすること。 * 経営学、経営戦略などの基礎内容を熟知すること。		

授業科目名	経営管理研究		
担当教員氏名(助手氏名)	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス1721研究室		
オフィスアワー	メールにて予約してもらい、その上で実施する		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って各授業日ごとの担当者を決定し、レジュメを作成してもらい発表・ディスカッション形式で授業を進める。また、実際の経営ケースをもとにケースメソッド教育を実践する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	組織構造と組織文化、現代経営者の役割と機能、経営戦略のプロセス理論、F.W. テイラーの科学的管理法、アンリ・ファヨールと管理過程学派、人間関係論、C.I. バーナードの組織論的管理論、H.A. サイモンの意思決定論、P.F. ドラッカー理論、M. P. フォレット理論、組織構造と組織文化、現代経営者の役割と機能、経営戦略のプロセス理論、等。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業は、アメリカ経営管理学(マネジメント論)を中心として、管理過程学派の理論および組織論的経営管理論の探求、さらには、経営戦略の実行としての組織について研究を行うものである。本授業の目的は以下の通り。1. アメリカ経営管理学説を体系的に理解する。2. 各学説の研究を通じて、経営者の役割とは何か、その本質を究明する。3. 実際の経営ケースを通じて、組織マネジメントの手法とスキルを養う。		
授業の内容	本授業の経営管理研究は、主にアメリカを中心として、管理過程学派の理論および、組織の生成と存続発展の過程を論理的にたどることによって組織の本質を解明し、そこから経営者の果たすべき役割の問題に迫ろうとする組織論的経営管理論の探求を行うものである。さらに、19世紀末期から20世紀初頭の古典的管理論から近代的管理論へ、そして、現代の組織・管理論に至るまでの一連の経営管理思想の歴史的変遷を考察することによって、これからの経営者のあり方や経営組織および管理のあり方を問い、今日の経営者教育についての課題を明らかにし、実践への応用を考える。		
成績評価の方法	授業計画に基づくレジュメ作成および発表・ディスカッション40%、期末レポート提出60%		
テキスト	テキストについては、受講する院生の希望を考慮して、院生の希望する文献の中から話し合いにより、適宜決定する。		
参考文献	参考文献については、授業中に多数紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	大学院の授業であるため、それなりに問題意識をもって参加してもらいたい。また、事前準備のための学習も頑張ってもらいたい。 少人数の場合は、各個人にレジュメ作成や発表など過度に負担にならないように、のびのびと、しかも、有意義な授業になるように進めていくので、安心して是非受講されたい。 経営管理は、マネジメント理論として経営学のプロパー・必修科目である。		

授業科目名	組織行動研究		
担当教員氏名(助手氏名)	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646 研究室		
オフィスアワー	随時 (メールで事前に予約をすること)		
授業の形式・方式	授業では、各自が所定の文献を講読し、要旨、著者の意図、疑問点、議論の発展の可能性などについて報告を行い、その後全員で討論する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免 (商業) 選択		
キーワード	コンピテンシー, リーダーシップ, モティベーション, 知識創造		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の主要な目標は、組織内で示される人々の多様な行動や態度について学習することによって、組織行動論に関する理解を深めることである。		
授業の内容	今日、経営環境のグローバル化の進展とスピード経営という競争環境の下で、経営組織を支える従業員の雇用形態は多様化し、経営組織の求める人材の確保と育成のあり方は変革を迫られている。講義では、これらの変革に対応する「人のマネジメント」の視点から、組織行動に関わる「コンピテンシー」、「モティベーション」、「リーダーシップ」、「知識創造」などをテーマとして取り上げて考察する。		
成績評価の方法	出席、授業への参加度、および、課題発表を総合的に評価する。		
テキスト	a. 教科書 金井壽宏・高橋潔『組織行動の考え方』東洋経済新報社、2004。		
参考文献	b. 参考書 平野実『国際合弁企業と知識創造』晃洋書房、2007。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回目の授業において、各自の報告担当箇所を決定するため、必ず指定された教科書を用意して出席すること。無断欠席は認めない。		

授業科目名	マーケティング研究		
担当教員氏名(助手氏名)	栗島浩二		
研究室の場所	広島キャンパス1648研究室		
オフィスアワー	未定		
授業の形式・方式	この授業は講義、ケース、討議で構成されている。講義が90分、ケース30分、討議60分の組み合わせで行なう。講義はテキストに沿って行なうので、事前に該当する単元をしっかりと読んでから参加することが望ましい。ケース、討議は前週にテーマを与え、毎時間発表してもらう。(時間の都合でレポートでの提出の場合もある)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	マーケティング・コンセプト, マーケティング・ミックス, ミッション, 市場戦略, 競争戦略, マーケティング・リサーチ, ブランド・マネジメント, サービス・マネジメント, 価格設定戦略, マーケティング・チャネル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の目標は以下のとおり・モダン・マーケティングの基本的概念を理解する・マーケティングの理論・研究を事例を使って理解する・ビジネスで実践している「実行力」を養う(プレゼンテーション力、論理的思考力、気づき)・組織内部では鈍化しがちな「マーケティングセンス」を磨き、実践力をつける(実践から理論を考察する)		
授業の内容	マーケティングは、事業にかかわる経営資源・組織のすべてを統合しながら、「利益が出るように顧客のニーズを満たすための諸活動」を指し、経営戦略の最重要課題のひとつとして認知されている。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動であるという誤解も散見される。本講義では統合的マーケティングの本質をモダン・マーケティングの理論体系から理解するとともに、実際の企業活動の事例を取り上げ、「ビジネス現場でのマーケティング」に関わる実践的な部分に焦点をあてたいと思う。		
成績評価の方法	・毎回の講義への出席および貢献度を評価。毎講義、ケース討議や提出物があるため、当然出席重視の評価となる(配点50点)・最終講義でマーケティング戦略のプレゼンテーションを各人に行っていただき、発表資料をレポートとして提出してもらう。それをもって最終学修到達度を確認する(配点50点) 詳細な評価の基準等は開講時に説明を行う。		
テキスト	テキスト:フィリップ・コトラー, ケビン・レーン・ケラー(恩蔵直人 監修、月谷真紀 訳)『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編第3版』ピアソン・エデュケーション, 2008。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	グループ討議や発表に積極的に参加する受講生を評価します。逆にただ出席しているだけでは評価が下がりますので、あらかじめテキストに目を通し、事前に示された課題を仕上げた上で、履修するようにお願いします。毎時問題提起が示され、講義中に発表していただきます。		

授業科目名	財務会計研究		
担当教員氏名(助手氏名)	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室 (広島キャンパス)		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	対面授業ですが、受講学生の積極的な参加を期待します。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 (修士課程) 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	企業会計の役割(会計責任、利害調整、意思決定支援)、二重責任の原則、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表、連結子会社の範囲(支配力基準)、ROA、ROE、流動比率、当座比率、負債比率、純資産比率、固定比率、固定長期適合比率、インスタント・カバレッジ・レシオ、フリー・キャッシュ・フロー、資本コスト、事業部の評価と事業部長の評価、株価の割引配当モデル、加重平均コスト、税効果会計、国際財務報告基準(IFRS)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	経営活動にとって会計は最も基本的な素養であり、有効なツールであることはいうまでもありません。本授業では、財務会計に関する考え方・実践手法を体系的に学ぶとともに、最新の話題、問題等にも言及して「生きた会計」を学ぶことを目標にします。		
授業の内容	授業では、変革期にある財務会計の現状と将来の方向性を見据えた、現代財務会計の考え方(理論)・実務(実践手法)を、テキスト(『MBAのための財務会計-基礎からIFRSまで(3訂版)』)を使用して習得することを目標にします。授業は、概ね、次のような内容で進めます。1. 現代社会において会計が果たす役割、2. 意思決定有用性と会計責任、3. 会計情報の作成、4. 貸借対照表の意義と機能、5. 損益計算書の意義と機能、6. キャッシュ・フロー計算書の意義と機能、7. 株主資本等変動計算書の意義と機能、8. 連結財務諸表の意義と機能、9. 会計情報の利用、10. 企業評価と会計情報、11. 資本市場と会計基準の役割、12. 国際財務報告基準(IFRS)と会計ビッグバン、13. 会計基準の社会的影響、14. 実際の上場企業の有価証券報告書の分析・検討		
成績評価の方法	受講態度と期末レポートで評価する予定です。		
テキスト	小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのための財務会計-基礎からIFRSまで(3訂版)』(同文館出版)		
参考文献	参考文献は、適宜、随時授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	管理会計研究		
担当教員氏名(助手氏名)	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。基本的にはゼミナール形式をとります。毎回、テキストを報告者を決めて輪読し、その報告について全員でディスカッションし、理解を深めていく予定です。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	戦略, 利益管理, 予算, マネジメント・コントロール, 意思決定, 業績評価		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業では、管理会計学における研究領域に対する基本的な理解を深めることを目標としています。近年の管理会計研究を理解するうえでは、隣接領域に関する理解を必要とする度合いがますます高まっています。したがって、経営学や財務会計論といった隣接領域の研究動向と結び付けて理解することを目指してください。		
授業の内容	近年の管理会計研究における研究トピックについて、テキストを輪読しながら理解を深めていく予定です。余裕があれば、個別のテーマにおける主要文献にはどのようなものがあるのかについてもディスカッションを進める予定です。		
成績評価の方法	出席状況, 受講意欲, レポート提出など, 平常点を含めて総合的に評価します。		
テキスト	テキスト・参考文献については、追って指示します。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ファイナンス研究		
担当教員氏名(助手氏名)	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメールでアポイントメントを取って下さい）		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、ゼミナール形式で実施する。すなわち、指定するテキストに関する学生の報告、その報告に基づく討議が授業の中心となる。学生は、授業での報告、討議への積極的な参加、授業中に課すレポートの提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	パーソナルファイナンス、コーポレートファイナンス、金融システム、現在価値、将来価値、資産評価、リスク管理、ポートフォリオ理論、先物、オプション、CAPM		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ファイナンスは、「不確実な状況下での稀少資源の時間を越えた配分方法」に関する学問であり、(1)時間を越えた最適化、(2)資産評価、(3)リスク管理、の3つの柱からなる。本授業の目標は、資産評価理論、リスク管理、ポートフォリオ理論等に代表されるファイナンスの一般的な理論を学習することにある。また、実際にファイナンスに関する意思決定の事例を取り上げ、その事例について分析・考察する。		
授業の内容	テキストをもとに、ファイナンスの基礎的概念と、家計のファイナンス問題を取り扱う「パーソナル・ファイナンス」、企業のファイナンス問題を取り扱う「コーポレート・ファイナンス」のエッセンスを学ぶ。具体的には、以下のテーマについて学習する。 (1)貨幣の時間的価値、(2)ライフサイクル・フィナンシャル・プランニング、(3)資本計画、(4)資産評価の理論、(5)債券の評価、(6)株式の評価、(7)リスク管理、(8)ヘッジング、(9)インシュアリング、(10)ポートフォリオ理論、(11)資本資産評価モデル(CAPM)、(12)先物、(13)オプション、(14)コーポレートファイナンス。		
成績評価の方法	授業での報告と報告資料70%、討議参加の積極性30%の割合で評価する。		
テキスト	ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン、デーヴィッド・L・クリートン（2011）『現代ファイナンス論（原著第2版）』ピアソン桐原		
参考文献	授業中に適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業はテキストに沿って行い、学生による報告および討議を中心に進めるため、受講者は事前にテキストの該当箇所を精読し、疑問点を明確にしてから授業に臨むこと。		

授業科目名	金融システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	塚原 一郎		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面、学生による発表形式。発表者は、テキストの担当箇所の内容をまとめるだけでなく、関連事項を調べ、最新のデータを自分で収集する必要があります。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	金融業務、金融機関、金融市場、デリバティブ、証券化、企業金融、消費者金融、資金循環、決済システム、金融政策、プルーデンス政策、金融制度改革、外国為替、国際金融		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、金融システムの全体像を、日本の実情とあわせて理解して、説明できるようになることです。この科目は会計ファイナンス領域の科目で、理解を深めるには、この領域の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	日本の金融システムを巡る環境は日々刻々と変化していて、伝統的な制度と新しい制度を両方学ぶ必要があります。この授業では、最新のテキストを輪読して、日本の金融システムの全体像を学習すると同時に、実際の動向についても検討していきます。具体的には、金融業務、金融機関、金融市場と金利、デリバティブと証券化、消費者金融、決済システムなどです。また、関連文献や国内外の経済・金融に関する最新の話題も適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末課題50%、発表と質疑応答50%		
テキスト	島村高嘉・中島真志(2014)『金融読本』(第29版)東洋経済新報社		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の履修者に迷惑をかける行為は禁止です。 ・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。 ・履修者が希望する場合は、相談のうえ、内容やペースを少し変更する可能性もあります。 		

授業科目名	地域マネジメント研究		
担当教員氏名(助手氏名)	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	ゼミナール方式(テキスト輪読)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	都市, 社会, 東京		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近年, 政府が法に基づき運営・管理する中央集権型システムであるガバメントから, 上下関係の中での強制や命令でなく, 公共性を一つのよりどころにしながら多様な関係主体が協働することによって生み出される自律的な秩序形成システムであるガバナンスへの移行の必要性が提起され, また各地で実践されている。本授業では, それらを考える前提として, 近年の都市社会の特徴と課題について, 東京を事例に考える。		
授業の内容	テキスト『東京スタディーズ』を受講者全員で輪読する。 各回の担当者を決定し, 担当者は各章の内容を要約したレジュメを作成し, それをもとに各章の概要を発表する。担当以外の者も事前に該当章を事前に通読しておく。最後に, 各章の内容をもとに受講者全員でディスカッションをおこなう。		
成績評価の方法	発表や討議(ディスカッション)に対する積極性などの評価に基づいておこなう。		
テキスト	吉見俊哉・若林幹夫(2005):『東京スタディーズ』紀伊國屋出版, 2,000円+税		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	全回出席が基本。主体的に発表と討議(ディスカッション)をおこなうこと。		

授業科目名	地域社会研究		
担当教員氏名(助手氏名)	山本 努		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	多様なバックグラウンドの学生が受講すると思われるため、受講生と相談の上、講義の内容や形式を調整する。テキストを使用するので、学生は必ず、テキスト持参にて出席する事。講義では参考文献を出来るだけ数多くあげる予定である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	社会構造, 現代社会, 地域社会, 地域問題, 社会問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会学をベースにした実証的地域社会研究(具体的には、農村社会学、都市社会学、社会病理学などの研究成果)を紹介・検討する。学部開講の社会学、現代社会学、地域社会学、社会調査論を受講しておくのが望ましいが、それを前提に受講を制限する訳ではない。		
授業の内容	地域社会研究の最新の成果や課題を講義する。具体的には、1、主に高度経済成長終了後の都市・農(山)村に焦点をあて、地域社会学による現状分析ないし実証研究の成果を検討する。2、地域福祉、地域問題、地域計画、地域作りなどの地域社会研究の応用・実践領域について言及する。3、さらに、現代日本の地域社会学に強い影響を与えている欧米の新しい社会理論や地域研究にも言及したい。		
成績評価の方法	授業への出席状況を加味して、期末レポート又は期末試験の結果で評価する。授業への出席が不振な学生には、試験の受験資格を与えない。		
テキスト	学生のバックグラウンドが多様であることが予測されるので、初回の授業にて学生と協議の上、決定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	公共経済研究		
担当教員氏名(助手氏名)	片桐 昭司		
研究室の場所	広島キャンパス 1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面方式の授業です。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義はミクロ・マクロ経済学を基礎とした内容で、経済発展のメカニズムを歴史的な観点やミクロ・マクロ経済学観点から理解することを目標にしています。加えて、経済発展の要因を分析・考察し、経済発展の過程で生じる問題点(外部負経済-環境問題)を認識することや政府や企業の役割や位置付を明確にすることを目標にします。		
授業の内容	テキストをもとに授業を進めます。先進国の経済発展の歴史をたどり、その後、ミクロ・マクロ経済学や計量経済学をもとに、開発途上国の発展展望、人口成長と天然資源の制約、資本蓄積と経済成長、技術進歩とその源泉、所得配分と環境問題などを取り上げ、先進国の経済成長の要因を分析・考察し、これをもとに中国やインドなどの開発途上国の経済成長の展望を検討し、経済発展における政府や政府の役割等を学ぶことにします。		
成績評価の方法	報告内容で評価し、期末試験は行いません。		
テキスト	長谷川啓之『アジア経済発展論』文真堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	なし		

授業科目名	システム最適化研究		
担当教員氏名(助手氏名)	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532 研究室		
オフィスアワー	毎週木曜日 17:20 から 18:20 まで、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約必要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	システム工学、情報工学、システムの最適化、動的システムの安定性、動的システムの可制御性と可観測性、経営システムの計画法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生にシステム工学における最適化手法に関する基本的な概念、基礎的内容を理解させることである。これによって、システム最適化理論の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学専攻の情報分野・経営科学領域に区分されている。		
授業の内容	状態空間法による現代制御理論は、古典制御理論では不得意であった多変数制御システムの設計に有効に用いることができる。システム最適化論研究では、一般的な多変数静的システム及び動的システムなどについて、システムの構造、制御、最適化の三関係を論ずる。システムの最適化の問題を各種モデルおよび実例(例えば、生産管理システム、広告システム、消費システムなど)をあげて講義し、すでに存在している最適化手法(最大原理と動的計画法による最適制御、LQG最適制御、離散値システムの最適制御など)を紹介し、特に発展中の最適化手法(H-infty最適制御など)および問題点も紹介する。		
成績評価の方法	平常授業での発表と討論、講義中に提出を求めるレポート(宿題)、講義終了後に提出していただく総合的なレポートなどによって、総合的に評価する。		
テキスト	使用テキストを特に指定していないが、講義中に最新の学術論文と参考資料などのプリントを適宜に用意・配布する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。特に、マネジメント分野に属している聴講生に対して、必要の場合、経営科学分野に関する基礎的な数学知識を紹介する。		

授業科目名	意思決定システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1636研究室		
オフィスアワー	火曜日 13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	主に対面授業方式で授業を進めるが、ディスカッションと実習をも重視する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	不確かさ、Type-1ファジィ集合、Type-2ファジィ集合、Type-1ファジィ推論、Type-2ファジィ推論、Type reduction、ファジィシステム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	経営＝意思決定。高度情報化社会の中で、様々な情報処理技法を駆使した意思決定はますます重要視される。本科目の目標は、人間が意思決定を下す際、不確かで曖昧な情報の処理によく使われるファジィ理論を理解し、その応用力を身に付けることである。		
授業の内容	人間が意思決定を下す際、不確かで曖昧な情報の処理によく使われるファジィ理論、及びその応用について論述する。予定のトピックスは次の通りである。1) Type-1ファジィ集合、Type-2ファジィ集合、2) 拡張原理、3) Type-1ファジィ推論、Type-2ファジィ推論、4) 非ファジィ化、Type reduction、5) ファジィシステムの構築とそのシミュレーション		
成績評価の方法	課題レポート50%、授業態度及びディスカッション50%の割合で総合評価する。		
テキスト	資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は大学院生であるため、勉強意欲が何よりである。単位取得自体は簡単であるが、身に付けるべき知識の習得は努力次第である。		

授業科目名	数理情報システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	竹本 康彦		
研究室の場所	広島キャンパス1649号室		
オフィスアワー	随時. ただし, 面談は事前にE-mail等で予約すること. (場所: 上記研究室)		
授業の形式・方式	配付資料に基づく対面講義形式とテーマに沿ったディスカッション形式を併用して, 授業を進める. また, 進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	戦略的思考, ゲーム理論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	多様な視点から物事を観察して問題を発見し, これを解決することは貴重な能力である. これを習得・実践するにおいて, 科学的アプローチは重要な役割を担う. この科目では, 特にゲーム理論の基礎を学びながら, 事象をモデル化して構造的に考えることの有効性や面白さを知ることが目標とする.		
授業の内容	ゲーム理論は, 自分だけでなく, 相手のことも考慮に入れて, 意思決定を行う場合に, 広く活用される問題解決の枠組みである. この科目では, ゲーム理論の基礎の適切な理解と習得に努めることを目標とし, ナッシュ均衡, ミニマックス定理, シュタッケルベルグ均衡, 部分ゲーム完全均衡, ナッシュ交渉解などをわかりやすく説明する.		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度, 課題, レポート, および試験をもとに総合的に評価する.		
テキスト	各授業の開始時に講義資料を配付する. ただし, 必要に応じて, 専門書および最新の学術論文を利用する.		
参考文献	特に指定しない.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	確率・統計における基礎知識があることが望ましい.		

授業科目名	最適システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可. ただし, 事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.		
授業の形式・方式	主に対面講義形式で授業を進める. ディスカッションおよびコンピュータを用いた実習も重視する.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	計算知能手法について考究する.		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は, ニューラルネットワーク, 進化計算, マルチエージェントどのソフトコンピューティングの基本的な概念, 内容をする. これらの手法を通じて, 学習, 最適化を理解し, その応用ができるようにする.		
授業の内容	ソフトコンピューティングの基本的な手法について, アルゴリズムや数理モデルを用いて概説する. また, クラスタリングについて考究する. Deep Learning手法について考究する.		
成績評価の方法	出席, 課題, レポートにより総合的に評価する.		
テキスト	資料プリント, 学術論文を配布する.		
参考文献	Yoshua Bengio, "Learning Deep Architectures for AI", Foundations and trends® in Machine Learning, 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	大学数学全般知識, 計算知能分野の基礎学力, および科学技術計算プログラミングが必要となる.		

授業科目名	動的システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	重丸 伸二		
研究室の場所	広島キャンパス 1640研究室		
オフィスアワー	随時（事前に電子メールで予約を取ることが望ましい）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義，課題発表，ディスカッションにより授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（情報）選択		
キーワード	動的システム，安定性，最適制御，ロバスト制御		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目ではシステム工学に関する数学的基礎を理解することを目標とする。時間の経過に伴って状態が変化するシステムを対象とし，そのモデリングや動特性について理解することを目指す。また，対象を望ましい状態に制御する手法，システムの安定性等の基礎理論を学習する。		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 動的システムのモデリング 動的システムの解 可制御性と可観測性 システムの安定性 状態オブザーバー設計 動的システムの最適制御，ロバスト制御 		
成績評価の方法	授業への参加度およびレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	講義資料は別途指示または配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	統計モデリング研究		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可, 事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	配布した講義資料や参考文献をもとに対面形式の授業とディスカッションを形式で実施する。必要に応じて、統計ソフトウェアなどを使った演習も取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	統計モデル, 経時データ解析, 空間データ解析, 生存時間解析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	情報技術の発展によりデータ測定は手軽に可能になり, 多様化するデータから必要な情報を取り出すにはデータ分析が不可欠である。データ分析法は数多く存在し, その中から適切な方法を選択するには, データのもつ特性を十分に把握する必要がある。多様化するデータに対する適切な分析法の選択, または新たな分析法の開発に重点を置いて講義を行い, ソフトウェアを利用しつつ, 現実のデータを題材にデータ分析に関する実践力の習得を目指した授業を行う。		
授業の内容	データ解析法は多岐にわたるが, データのもつ情報の損失を最小限にしつつ効率の良い解析を行うためには, 解析対象のデータの特性に応じて, 適切な解析法を選択することが不可欠である。統計モデリング研究では, 同じ対象に対して異なる時間や条件で繰り返し測定した経時データ, 観測された位置情報も付与された空間データなどに対して, いかにしてデータの特性を統計モデルに取り込んで推測するかを研究する。		
成績評価の方法	課題発表およびレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	講義資料や参考文献等は必要に応じて配布する。		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計学に関する基礎知識があることが望ましい。		

授業科目名	知的生産システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	配布した資料に基づく対面授業とディスカッション形式を併用して授業を進める。また、必要に応じて適宜コンピュータを使った演習を実施することがある		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻1, 2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	生産システム, 生産管理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生産システム論、生産情報システム論で習得した内容を含めた生産管理、生産システムに関する事項及び解析法を最新の研究課題を含めて理解することを目標とする		
授業の内容	まず、生産システム・生産管理についての最新のトピックスを研究論文を用いて述べる。その後、生産システムの解析に用いられている手法について必要に応じてコンピュータを用いて述べる		
成績評価の方法	出席及び講義中のディスカッションにおける態度、課題、レポート及び試験を基に総合的に判断する		
テキスト	各授業の開始時に講義資料を配布する。必要に応じて専門書及び最新の学術論文を利用する		
参考文献	特に指定しない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生産システム論、生産情報システム論を履修済みが望ましいが必修ではない		

授業科目名	応用確率システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661 研究室		
オフィスアワー	金曜日 9時～20時, 場所は担当教員室		
授業の形式・方式	対面授業である。授業日程に従って, 資料プリントを用いた講義と, 受講生による課題発表の両者を併用することにより, 授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	確率システム, 不規則現象, システム同定, 状態推定, 確率的制御, 環境システム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	情報分野における授業科目の一つである。現実の現象は通常, 不確実な要因を含んでいる。したがって, 実際の経営情報学を理解し分析するには, 確率的な取り扱いが不可欠である。この授業では, 実現象をシステムとして捉え分析する, いわゆるシステム論的立場から, 各種の確率的手法について基礎から講義を行い, 現実の問題へ応用できるような実践力の養成を重視した授業を行う。		
授業の内容	社会・経済・環境など, 実際の現象はさまざまな不規則要因を含んでいることから, その解析においては確率的取り扱いが必要になる。本講では, このような実現象を確率システムとして捉え分析するためのシステム同定, 状態推定および確率的制御の各手法について講述する。また, これらの方法論をいかに経営戦略に応用するかについて議論する。さらに, 現代の経営戦略においては, 環境コストを組み入れ考慮することが不可欠であることから, 特に, 確率環境システム(音・振動・電磁環境)を具体例として採り上げ教育研究を行う。		
成績評価の方法	課題発表とレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	確率システムに関する専門書および最新の学術論文を教材として使用する。また, 必要に応じてプリントを作成し配布する。		
参考文献	参考文献: 太田・生田・小寺・内野・小泉・和田共著「基礎 情報音響工学」朝倉書店, 尾崎著「確率モデル入門」朝倉書店, 片山著「応用カルマンフィルタ」朝倉書店		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計学に関する基礎知識があることが望ましい。		

授業科目名	数理最適化研究		
担当教員氏名(助手氏名)	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の資料により講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。毎回講義の始めに、前回講義の要約レポートを提出すること。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	大規模。スパース行列。アルゴリズムとデータ構造。ソフトウェア開発。ソフトウェアセンター。情報の多重暗号化。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	経営工学あるいは電気工学の問題に対して工学的なアプローチを行う際に本質的な目的である、数理的な最適化を理解することができる。すなわち、現実問題として現れる各種の計画、設計、運用に適用される、数理的な最適化の方法について体系的に理解できる。更に、情報の多重暗号化を考察できる。講義では、大規模でスパースな行列を念頭において、数理的な最適化を行う際に基本的な概念や理論的根拠となっている方法が理解できる。最適化のための情報処理システムを開発できる情報技術者の能力を養うことができる。		
授業の内容	<p>授業では以下の内容を中心に講述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最適化とその基礎、最適化計算の基礎知識 2. 線形数学などの基礎的事項、2次形式と対称行列 3. 線形計画問題のためのシンプレックス法 4. 整数計画問題のための分枝限定法 5. 混合整数計画問題 6. その他の解法 <p>更に、経営のためのアルゴリズムとデータ構造を講義する。また、このような最適化を具現化するのに必要なソフトウェアを開発する際に留意すべき事項について述べる。なお、最適化等のソフトウェアの開発及び運用のために、情報ネットワーク及びソフトウェアセンターに関する考察を行う。情報の多重暗号化を行う。</p>		
成績評価の方法	毎回講義の始めに提出する、前回講義の要約レポートで評価する。		
テキスト	講義資料は、その都度配布する。		
参考文献	錦織昭峰, 特集解説「日本の情報ネットワークおよびソフトウェアセンターに関する提言」, 電気学会論文誌, 第121巻C分冊, 第1号, pp. 56-57, 平成13年1月。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学部講義で、「線形計画法」等を受講しておくことが望ましい。		

授業科目名	応用情報システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義・ディスカッション形式で授業を実施する。学生は授業への出席、課題の提出とその発表が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	無線通信技術、Wi-Fi、Bluetooth、Zigbee、WiMAX		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近年、広く開発／運用される情報システムは、様々な無線通信システムと組み合わせた構成となっている。本講義では、現在広く利用される無線通信システムに関してその技術、特徴について体系的に理解することを目的とする。本講義の受講者は、これらの講義を通じ、新たなネットワークを利用する情報システムを開発する際、どの無線通信技術と組み合わせることが妥当であるかについて適切に判断できるようになることを目標とする。		
授業の内容	現在、様々な分野に情報システムが導入されているが、通信技術ならびに情報技術の急速な進歩に伴い、小型軽量かつ高速無線通信技術を搭載したデバイスが多く開発され普及している。今後、新たな情報システムを開発する際には、その用途に応じてどの無線通信技術を組み合わせるかが情報システムの運用に非常に大きな影響を及ぼすと考えられる。そこで、本講義では、現在普及している数多くの無線通信技術を体系的に紹介し、それぞれ、具体的にどのような技術が組み込まれ、どのような特徴を有するか、さらにはどのような用途の情報システム採用されているかについて説明する。尚、本講義では各無線通信技術について学ぶために、まず、最低限必要な電波伝搬に関する基礎的な物理現象について説明を行った後にそれぞれの無線通信技術の内容について詳述する。		
成績評価の方法	課題発表とレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	講義資料は、必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	視覚情報処理研究		
担当教員氏名(助手氏名)	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可(研究室前に掲示)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に発表させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・発表することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コンピュータ、マルチメディア(特に画像処理系)の一般的な知識を有していることが望ましい。		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	コンピュータ・ビジュアライゼーション、コンピュータグラフィックス(CG)、インターネット、Web、二次元CG、三次元CG、インターフェース、アクセシビリティ、ユーザビリティ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目の目標は、コンピュータの操作、動作原理、インターネット、マルチメディアの基礎知識を持つ学生にコンピュータ・グラフィックスを主とした情報の可視化技法とその応用を理解させ、身に付けさせることである。そのため、情報の可視化技法(コンピュータ・ビジュアライゼーション)やその応用について講述する。これによって、視覚情報分野の専門知識の習得の他に、Webデザインなどの実務への応用も可能である。</p> <p>また、FlashCSなどのマルチメディア系のソフトウェアを実際に利用し、マルチメディア・コンテンツ開発技法の習得も目標の一つとする。本科目は、経営情報学専攻の情報分野の情報システムに区分されている。</p>		
授業の内容	<p>人間が取り入れる情報のかなりの部分は視覚に依存すると言われている。そこで、今日の情報化社会における複雑多岐にわたる膨大な量の数値情報を、コンピュータ・グラフィックスに代表されるデータの視覚化技法を用い、分かりやすく効率的に扱うための手法について講義する。まず、人間の視覚情報処理の仕組みから、二次元および三次元コンピュータ・グラフィックスの基礎、応用、最新の技法、その用途などを中心に学習する。そしてその商用利用やインターネットでの活用について、最新の事例やトピックスを題材にして講述する。また、経営情報システム演習室等の設備を活用し、マルチメディア・コンテンツの開発演習等を積極的に取り入れることにより、講義内容の理解を深め、応用させる。また、課題等についてはプレゼンテーションソフトを利用した発表のスライド作成技術や、発表技法などの指導をおこなう。詳細はシラバスに掲載する。</p>		
成績評価の方法	<p>数回の課題レポート(宿題)と発表で評価する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。レポートはプレゼンテーションソフトを用いての発表によって評価をおこなう。この際、レポートの内容はもちろんだが、発表方法や態度、わかりやすさなども評価の対象とする。また、課題レポート以外にも、授業への積極的な参加(発言等)をプラス点として、全体の10%を超えない範囲で加える。</p> <p>なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、課題の発表を1回でも無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。</p>		
テキスト	毎回の講義において、プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	技術的な内容が多数含まれるため、欠席が多くなると講義の内容の理解が困難になるので注意すること。		

授業科目名	情報ネットワーク研究		
担当教員氏名(助手氏名)	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時。メールにて予約してください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義に関連する宿題（レポート課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。研究課題ではゼミナールのような形で発表させる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（情報）選択		
キーワード	情報ネットワーク，インターネット，通信プロトコル，サーバ/クライアント，TCP/IP，IPv6		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は，修士課程の学生を対象にして，現行の情報ネットワーク（とりわけインターネット）及び次世代ネットワークのアーキテクチャを研究する。履修者は本授業を通じてネットワーク上で展開される多彩かつ高度なサービス機能だけでなく，これらの機能を支えている技術等を習得する。また現行インターネットが抱えているセキュリティ問題などの脆弱性を分析し，その原因等を探り，履修者にネットワークの活用及び運用管理等における高度な知識を養わせる。カリキュラム上には情報分野，情報システム領域の主な科目の一つと位置づけられている。		
授業の内容	情報ネットワークを数理的アプローチから考慮し，現行インターネット，近未来の情報ネットワークならびにその社会的な役割について研究していく。具体的には，現行インターネットが抱えている脆弱性などを含む諸問題を分析し，ユビキタス・ネットワーク社会に備え，次世代インターネットのコンセプト及びアーキテクチャ(特にネットワークの信頼性，安全性，ネットワーク認証，遠隔制御などの技術)を研究する。更に情報ネットワークが，サービス業や福祉部門などの分野にもたらす変革ならびに新しいビジネスモデルについて考える。		
成績評価の方法	期末レポート60%，課題レポート（宿題）等40%の割合で評価する。期末レポートは小論文の形で実施し，〆切（通常1週間）までに提出する。課題レポート(宿題)は授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は，通常，次回授業時間の開始時とする。またレポートの作成に文献や資料等を自由に参考してよい。		
テキスト	教科書は使用しない。必要に応じてプリント教材を配布する。		
参考文献	アンドリュー・S・タネンバウム著、水野忠則ら訳：「コンピュータネットワーク」、日経BP社。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	情報ネットワーク（TCP/IP）に関する基礎知識を有することが望ましい。 履修者は授業前の予習と後の復習で授業内容の理解を深め，能動的に授業に臨むこと。		

授業科目名	情報環境システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、別途配布する授業資料に関する講義・ディスカッションならびに演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習2時間を想定した授業を行う。学習単元毎にレポート課題を課し、次の授業開始時に提出させる。学生は、授業への出席とレポート課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	情報環境, 情報技術, 情報家電, ユビキタス, デジタルデバイド, ネットワーク, データベース, Webアプリケーション開発, マイコン技術, 組み込み系ソフトウェア開発		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、情報化社会を支える情報環境システムに応用されている情報技術について、主にネットワークとデータベースを利用したWebアプリケーションならびに組み込み系ソフトウェアの話題を中心に講義する。本科目の目標は、情報環境システムの持つ目的と意義を理解し、それを実現するための具体的なシステム構築法について議論を深めるとともに実践力を身につけることにある。これにより、情報環境システム分野の専門知識の習得はもちろんのこと、実務への応用も可能である。本科目は、経営情報学専攻の情報分野中の情報システムに区分されている。		
授業の内容	情報化社会を支える情報環境システムは、ネットワーク技術、データベース技術、組み込み系マイコン制御技術、無線通信技術など、さまざまな情報技術を基盤にして成り立っている。それらの要素技術は、システムの持つ目的を効果的に実現するために、最適に組み合わせ利用されなければならない。また、ひとたび情報環境システムが構築され利用されるようになると、アクセシビリティやヒューマンインタフェースの問題を中心としたデジタルデバイド問題がユビキタス実現途上の重要課題として浮上してくる。本講義では、情報環境システム構築に必要な主要な情報技術について講義する。そして、最新の活用事例について紹介し、それを題材にディスカッションする。また、Webアプリケーションや組み込み系ソフトウェア(マイコン制御プログラム)の作成演習を取り入れることにより、システム構築(主にソフトウェア開発部分)について実践的な教育研究をおこなう。		
成績評価の方法	課題レポート30%、演習の実施状況40%、出席状況およびディスカッション30%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	使用しない。必要に応じてプリント資料を無料で配布する。		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	コンピュータとネットワークに関する基礎知識、プログラミングの基礎知識があることが望ましい。情報処理技術者試験のレベルでは初級シスアドもしくはITパスポート区分以上の知識があることが望ましい。		

授業科目名	適応情報システム研究		
担当教員氏名(助手氏名)	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可) 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の参考書、論文誌および別途配布するプリント資料を用いて講義・演習併用形式で進める。講義では、英文の参考書や参考論文を用いて、適応システム理論の基礎から最先端のアルゴリズムまで講義し、ホットな応用分野についても紹介する。演習では、様々な適応アルゴリズムのシミュレーション実験を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	情報通信システム, 適応システム, 適応アルゴリズム, 計算機シミュレーション, 適応理論の応用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この講義では、適応システムの基礎理論から最新のアルゴリズムまで紹介するもので、まず適応システムの基本構成と基本アルゴリズムを理解させる。MATLABによるシミュレーションを通して基礎理論への理解を深める。基礎理論の理解を優先しながら、最新の適応理論、適応アルゴリズムとその応用についても解説する。		
授業の内容	情報通信、電力、環境、生体、経済・社会などのシステムにおいては、外部環境変化によりシステム特性が時間と共に変動するのがしばしばである。本研究では、情報通信システムを中心に、環境の変化に適応できるシステム構造を紹介すると共に、システムの性能を確保するための適応情報・信号処理アルゴリズムについて述べる。また、デジタル通信システムの等価器と能動騒音制御システムに関する最先端の研究開発も具体例として取上げ教育を行なう。		
成績評価の方法	プロジェクト実験形式を採用する。最近またはよく知られているアルゴリズムについてシミュレーションを行い、その結果を分析し、プロジェクト実験レポートとして提出させる。成績はプロジェクト実験レポートや出席状況などを総合的に評価する。具体的には、学生の専門性を考慮し、なるべく修士研究に有益な課題を取り上げる。さらにシミュレーションは初歩から演習を通して学習させることで、課題取り組みへの準備を確実に進める。		
テキスト	授業の初日に提示する。		
参考文献	参考書・文献：① S. Haykin, Adaptive Filter Theory, 3rd edition, Prentice Hall, 1996; ② B. Widrow & S. D. Stearns, Adaptive Signal Processing, Prentice Hall, 1985; ③ J. G. Proakis, Digital Communications, 3rd edition, McGRAW-HILL INTERNATIONAL EDITION, 1995; ④ A. Cichocki & S. Amari, Adaptive Blind Signal and Image Processing, John Wiley & Sons, 2003; ⑤ IEEE Trans. on Signal Processing; ⑥ IEEE Trans. on Circuits & Systems (2010 - 2014).		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	シミュレーションは時間をかけて行うこと。		

授業科目名	マネジメント特別講義 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721 研究室		
オフィスアワー	メールか電話による予約をしてもらい、その上で実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。経営学および経営戦略領域における著名な講師陣によりオムニバス方式で授業を進める。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	経営戦略 経営組織 経営管理 人的資源管理 実践マーケティング 技術マネジメント グローバル化 競争環境 能力開発 トップマネジメント ビジネスプラン NPO経営 経営ケース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	マネジメント特別講義 I は、前期後半1単位の集中講義とし、経営戦略領域において広く内外の学会や実務界で活躍中の外部からの著名人を招聘し、経営及び経営戦略領域の各々の研究における時代の変遷を捉えた上で、経営の新しい理論ならびに手法を学び、その導入の成功事例や失敗事例などの最新動向を講義する。カリキュラム上の位置づけとしては特別講義に位置づけられる。1. 経営戦略における最新事例を基に研究を深める。2. 経営組織および経営管理における新しい理論を習得する。		
授業の内容	グローバル化が浸透し、スピード経営の激化する今日の競争環境の中で、企業を初めとする多くの経営組織では、組織活動の品質の一層の向上に向けて、経営の新しい理論や手法の開発や導入および実施による組織変革が常態化しようとしている。マネジメント特別講義 I は、前期後半1単位の集中講義とし、経営戦略領域・公共経営領域において広く内外の学界や実務界で活躍中の著名人を招聘し、経営の新しい理論や手法の特徴や導入の成功事例や失敗事例などの最新動向を講義する。		
成績評価の方法	授業参画度(平常点) 40%、レポート提出60%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	当日、適宜、参考資料を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	普段なかなか受講することのできない著名人の講義であるため、大変貴重な講義である。積極的に全員参加してもらいたい。尚、本講義を担当される著名人および日程については後日連絡する。		

授業科目名	マネジメント特別講義Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメールでアポイントメントを取って下さい）		
授業の形式・方式	対面授業。複数の外部講師によるオムニバス方式の講義を行う。この講義は後期の秋学期・前半の土曜日を利用して開催する予定である。		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	金融システム, 金融規制, 金融政策, 中央銀行, プルーデンス政策, 金融システム安定化, 早期是正措置, 金融ビッグバン, 金融商品, 投資家保護, 金融サービス法, 情報開示		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業はマネジメント分野の特別講義であり、その目標は会計ファイナンスに関する最新の理論と分析方法を修得するところにある。		
授業の内容	グローバル化が浸透し、スピード経営が激化する今日の競争環境の中で、企業を初めとする多くの経営組織では、組織活動の一層の向上に向けて経営の新しい理論や手法の開発や導入および実施による組織変革が常態化しようとしている。マネジメント特別講義Ⅱでは、会計ファイナンス領域において広く学界や実務界で活躍中の方々を講師として招聘し、マネジメントの新しい理論や手法の最新動向について講義する。本年度は、特にファイナンス領域から「変革期における日本の金融システム課題と展望」のテーマで実施する。		
成績評価の方法	授業参画度（授業中の討議参加の積極性など）50%，レポート50%の割合で評価する。レポートの提出方法等については、別途指示する。		
テキスト	テキストは特に指定しない。資料は必要に応じて授業中に配布する。		
参考文献	都度、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・履修予定者はこのコースカタログをよく読んで、履修選択すること。 ・授業の進め方については、開講時に配布するシラバスによって案内する。 		

授業科目名	経営情報特別講義 I		
担当教員氏名(助手氏名)	児玉 学 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	<p>学生のグループ討議とその発表を取り入れた対面授業。授業日程に従い、主にITコーディネータプロセスガイドラインに沿った講義と、モデル組織を題材としたケース研修(グループワーク)を実施する。</p> <p>1回の講義につき、座学1.5時間(1コマ)＋グループワーク1.5時間(1コマ)を想定した授業を行う。グループ発表の内容は、評価の対象とする。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	IT経営, IT経営認識プロセス(認識プロセス, 実現プロセス, 共通プロセス), 各種リファレンス(CMM, APQC, EA, COBIT, PMBOK, ISMS, RFP, SLA, ITIL, PRAM, DDP, BSC, DMM, WFA, ABC等)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>中堅・中小企業のIT経営実現のため、2001年度に経済産業省が創設した「ITコーディネータ制度」のプロセスガイドラインを学び、その内容の理解を深めるためにモデルケースを通じたグループワークを行う。経営とITの両面に精通し、企業経営に最適なIT投資を支援・推進することができるプロフェッショナルであるITコーディネータ(以下「ITC」と略す)の実践力体系(BPA;Body of Practical Ability for ITC)に即したカリキュラムとする。</p> <p>■学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IT経営の概念を理解する。 2. ケース研修を通じて、実践力体系を体感する。 3. ITと経営をベストマッチさせることの出来る能力の基礎を身につける。 		
授業の内容	<p>本授業では、経営戦略から戦略的IT利活用に至るIT経営実現プロセスの知識体系・実践力体系について、講義を行う。その講義内容に基づいてグループワークを行い、現実社会におけるIT経営とは何か、をより具体的に理解してもらう。</p> <p>モデルケースは、社会経験豊富な学生もまだ社会経験のない学生も同じスタンスで臨めるよう、身近で興味深い「地元プロスポーツチーム」を仮想クライアントと位置づけ、そのIT経営化を図ることとする。</p> <p>■ITCカリキュラム</p> <p>①経営戦略論 ②IT戦略論 ③IT資源調達論 ④IT導入論 ⑤ITサービス活用論 ⑥プロセス&プロジェクトマネジメント論 ⑦コミュニケーション論 ⑧モニタリング&コントロール論</p>		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 25% 2. 各回のケース研修におけるグループワーク発表内容 25% 3. IT戦略企画書(各自で作成, 最終講義で発表後採点)の内容 50% 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> ①ITCプロセスガイドラインver. 2.0 (ITC協会HP: PDF177ページ; 無料ダウンロード) ②ITC実践力ガイドラインver. 2.1 (ITC協会HP: PDF278ページ; 無料ダウンロード) ③補助教材: 毎回パワーポイントで講師が作成した資料(都度配布) 		
参考文献	ケース研修でモデルとする地元プロスポーツチームに関する各種出版物, その他プロスポーツチーム経営に関する各種書籍		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>ITベンダの人事担当者が営業担当に取得させたい資格でダントツ1位(日経コンピュータ2010年11月10日号『2011年版いる資格いらない資格』)であるITコーディネータ(経済産業省推進資格)の専門知識研修修了程度の知識習得が可能。</p> <p>履修予定者は、ITC協会HPからテキスト①②をダウンロードし一通り目を通してから1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には数学課の掲示及び学生に対する授業内での連絡によって行うが、別途履修生用のフェイスブックページを立ち上げ、情報交流の場とする。</p>		

授業科目名	経営情報特別講義Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	松富 達夫 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。集中講義(全4回、各8時間)の日程に従って、各回毎に適宜配布する資料と下記参考文献による講義形式で実施する。各回の冒頭で提起される課題に対する専門的討議を通じて、問題解決(ソリューション)能力向上を目指した授業を行う。各回毎に講義概要についてのレポートを提出。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	サプライチェーンマネジメント, 在庫管理と生産管理, J I T, スケジューリング, ロジスティクス, システム最適化, データマイニング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>(1) 経営情報システムの企画・設計・構築・運用管理の手順のために、企画と基本モデル設計, 詳細設計についてどのようにアクションすればよいかを実践的な例を含めて体験・理解する。</p> <p>(2) 経営情報の中でも中心的な情報システムである生産管理システムについてのジャストインタイム(JIT), サプライチェーンマネジメント(SCM), 品質管理(QC)などに関する知識を体系的に理解する。</p> <p>(3) 専門性を重視し, 自ら課題を発見し, 問題解決法を思考する問題解決能力を養成する。</p>		
授業の内容	<p>企業などにおいて経営情報システムをどのように設計すれば活用されるシステムが構築されるかを学習する。事例を多く取り入れ, 演習や討議を通して, データマイニング, システム開発, システム設計の考え方(思想)について講究する。内容は情報システムの設計・開発手順, 設計における意思決定を中心とする。生産管理システムは, 時間とともに変化する生産状況に対応して, オーダーやジョブの優先順位と工程能力を適切に把握し, 関係部署に情報を的確に伝達するための情報システムである。主な内容は, 代表的な生産管理方式であるジャストインタイム生産方式, サプライチェーンマネジメント, 工程設計, スケジューリング手法などについて体系的に講究します。また, 施設・設備の配置やレイアウトの決定方法についても説明します。</p>		
成績評価の方法	<p>1. レポート(4回×15%, 60%)</p> <p>2. 小論文(40%)</p>		
テキスト	テキストは, 適宜資料を配布する。		
参考文献	<p>参考文献は,</p> <p>①スミチ・レビ著「サプライチェーンの設計と管理」(朝倉書店)</p> <p>②太田雅晴著「生産情報システム」(日科技連)を用いる。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	参考文献①, ②を購読し, 予備知識を得ておくこと。		

授業科目名	会計情報演習		
担当教員氏名(助手氏名)	五百竹 宏明		
研究室の場所	広島キャンパス 1726研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前予約を取ること）		
授業の形式・方式	対面授業。原則としてシラバスにしたがって演習形式で行う。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	会計情報、規範的会計研究、実証的会計研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「規範的会計研究」ならびに「実証的会計研究」と呼ばれているなかから代表的な研究成果を検討することにより、社会科学としての会計研究の方法論について理解を深めたい。		
授業の内容	「会計は、利害関係者の合理的な意思決定に役立つ有用な情報を作成し伝達する活動である」という考えにもとづいて会計理論を展開する立場があり、意思決定有用性アプローチと呼ばれている。また、近年はこのアプローチを拡張するようなかたちで、会計方針選択に関する経営者行動の説明を試みる研究や会計数字と株価との直接的な関連性を明らかにしようとする研究等が行われている。演習では、上記のような問題意識のもと、これまでに蓄積されている主要な理論研究と実証研究の成果を検討する。具体的には国内外の代表的な論文（主に英文）を読み、受講生と議論しながら理解を深めたい。		
成績評価の方法	演習への貢献（発表及び討論）で評価する。		
テキスト	未定		
参考文献	進行に応じて、随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営管理演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールやにより予約の上、実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。まず、経営管理演習内容の日程を決める。次に、各授業日ごとに発表者を決め、レジュメを作成してもらい発表してもらう。その後、皆でディスカッション形式で授業を進める。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻(修士課程) 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	F.W. テイラーの科学的管理法 アンリ・ファヨールと管理過程学派 人間関係論 C.I. バーナードの組織論的管理論 H.A. サイモンの意思決定論 P.F. ドラッカー理論 M. P. フォレット理論 組織構造と組織文化 現代経営者の役割と機能 経営戦略のプロセス理論 企業論 コーポレート・ガバナンス論 CSR経営論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業は、アメリカ経営管理学(マネジメント論)を中心として、管理過程学派の理論および組織論的経営管理論の探求を行うものである。経営管理論は、マネジメント分野におけるマネジメントそれ自体を考察するものである。 本授業の目的は以下の通り。1. 院生個々人のマネジメントに関する問題意識を明確化し、その問題の解明のために専門書を輪読する。2. 院生自らの視点から、各経営管理學説の意義と限界を示し、その評価と批判ができるようになる。3. マネジメント理論の実践への応用を考える。		
授業の内容	本授業の経営管理演習は、アメリカを中心として経営管理論および経営組織論の理論的基礎をふまえた上で、人間・組織・管理に関する実際の経営ケースをもとに討議し、基礎理論の重要性の認識を深めていく。さらに、アメリカ経営管理論および経営組織論を中心として、理論の実践的有用性についての検討を進める。また、個々の院生の問題意識に合わせて、各自テーマを設定させ研究発表してもらうなどの演習も実施していく。 また、受講生の要望によっては、組織文化論、企業論やCSR経営論、ステイクホルダー・マネジメントにまで範囲を広げて研究する。		
成績評価の方法	出席および授業参画度40% 課題レポート提出60%		
テキスト	テキストについては、受講生の興味・関心分野を考慮し、相談の上で決定する。例えば、小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月発行。		
参考文献	参考文献については、受講生のニーズに対応して授業中に多数紹介する。 小原久美子『現代組織文化論研究』白桃書房、2007年。C. オットー・シャーマー著『U理論一過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術一』英治出版、2010年。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	大学院の授業であるため、それなりに問題意識をもって主体的に取り組んでもらいたい。特に、発表・ディスカッションにおいては、より活発な議論となるように事前準備を怠らないこと。出席も重視する。 人数が少ない場合は、レジュメ作成および発表回数など、各個人に過度に負担にならないように工夫し、演習を進めていくので安心して受講されたい。のびのびと、しかも、有意義な演習になるように努めるので、頑張りましょう。		

授業科目名	公共経済演習		
担当教員氏名(助手氏名)	片桐 昭司		
研究室の場所	広島キャンパス 1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面方式の授業です。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	経済政策、経済成長、人的資本、研究開発(R&D)、政府の役割		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本演習は経済史、マクロ・ミクロ経済学および計量経済学を基礎とした内容で、経済発展の要因を多角的な観点から分析・考察し、さらに経済発展における政府・企業の役割を確認することを目標とします。加えて、本演習を通じて、経営戦略を立てる際の政府行動に関する知識を修得するように演習を進めます。授業は院生の報告で進めます。		
授業の内容	日本語・英語の論文を用いて、経済発展の歴史的経過とその要因をミクロ的観点(効用最大化や費用最小化)とマクロ的観点(計量分析など)から分析・考察します。具体的には、生産と要素賦存の最適関係、経済成長と物的・人的資本との関係、経済成長と研究開発(R&D)との関係、経済成長と貿易との関係、貿易と海外直接投資(FDI)との関係など、多角的な観点から経済成長の要因を分析し、経済発展に関する政策的な提言や、グローバル的観点からの企業戦略等を試みます。		
成績評価の方法	質疑応答や報告内容で評価し、期末試験は行いません。		
テキスト	後日、英語の論文を指定します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	なし		

授業科目名	金融システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	塚原 一郎		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面、学生による発表形式。発表者は、テキストの担当箇所の内容をまとめるだけでなく、関連事項を調べ、最新のデータを自分で収集する必要があります。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業) 選択		
キーワード	金利の期間構造、効率的市場仮説、金融構造、金融危機、金融規制、銀行業界、中央銀行、金融政策、為替レート、国際金融システム、貨幣数量説、総需要総供給、期待、波及経路		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、金融システムの全体像を、海外文献の輪読により理解して、説明できるようになることです。さらに、研究テーマ検討の参考になること、英語文献に慣れることも目標となります。この科目は会計ファイナンス領域の演習科目で、理解を深めるには、この領域の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	グローバル経済の下での金融システムは、一つの国の中だけでは完結せず、海外との関わりも重要になります。本講義では、海外の文献をとおして、金融システムの全体像を学び、研究テーマを検討する際の参考とします。具体的には、貨幣や金利の基礎概念、金融制度、各国の金融危機、金融機関の規制、マクロ金融政策、国際金融、貨幣理論などの項目を扱います。また、関連文献や国内外の経済・金融に関する最新の話題も適宜紹介します。		
成績評価の方法	前期末と後期末の課題50%、発表と質疑応答50%		
テキスト	Mishikin, F. S. (2013) "The Economics of Money, Banking and Financial Markets" (3rd ed) Pearson		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の履修者に迷惑をかける行為は禁止です。 ・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。 ・履修者が希望する場合は、相談のうえ、内容やペースを少し変更する可能性もあります。 		

授業科目名	財務会計演習		
担当教員氏名(助手氏名)	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室 (広島キャンパス)		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	演習形式で実施します。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 (修士課程) 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国際財務報告基準(IFRS)、コンバージェンス、アドプション、国際会計基準審議会 (IASB)、東京合意、同等性評価、ノーワーク合意、概念フレームワーク、公開草案、ディスカッションペーパー、再審議、デュープロセス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	自民党の日本経済再生本部は、成長戦略への提言となる「日本再生ビジョン」において、政府は、2016年末までに300社程度のIFRS任意適用に向けてあらゆる対策を検討し、実行に移すとともに、積極的に環境整備に取り組むべきとの提言を行っている。今や、150を超える国々で国際財務報告基準(IFRS:International Financial Reporting Standards)が導入されているか、あるいは導入することが決定している。日本においても、中小企業も含め、グローバル化の中で、諸外国に進出しており、その進出先の国の会計基準は、IFRSで財務会計を行っている場合が多いというのが実情である。また、国境を超えたM&A等において、買収予定企業の財務諸表がIFRSで作成されていることが多い。この演習では、今や、財務会計の分野で避けて通れなくなったIFRSの理解を行うことを目標とします。		
授業の内容	まず、2013年7月時点で有効なIFRSsを記載しているテキスト (『テキスト国際会計基準 (第6版)』) を省略することなくとりあげていき (22回)、次に、2013年7月以降公表された又は公表される予定のIFRSs・主要公開草案・主要ディスカッションペーパーの読解、再審議の対象となった公開草案および再審議の内容のフォローを行い (6回)、さらに、実際の日本企業でIFRSを任意適用している上場企業の有価証券報告書を分析することを予定しています (1回)。具体的には、授業 (演習) は、概ね、次のような内容で進めます。1. 会計基準の国際的統合、2. 国際会計基準の制定と適用、3. 概念フレームワーク、4. 2013年7月時点で有効なIFRSs、5. 2013年7月以降公表された又は公表される予定の主要IFRSs・主要公開草案・主要ディスカッションペーパー、6. 再審議の対象となった公開草案および再審議の内容のフォロー、7. IFRSを任意適用している上場企業の有価証券報告書分析、を行うことを想定しています。		
成績評価の方法	演習における受講態度 (報告状況を含む) で評価します。		
テキスト	桜井久勝編著『テキスト国際会計基準 (第6版)』 (白桃書房)		
参考文献	参考文献は、適宜、随時授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	IFRSを初めて学ぶ方々には適宜フォローをします。IFRSを学んでいなくとも、企業のグローバル化に対応するために、是非、積極的に参加ください。		

授業科目名	地域社会演習		
担当教員氏名(助手氏名)	山本 努		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	多様なバックグラウンドの学生が受講すると思われるため、受講生と相談の上、演習の内容や形式を調整する。学生は必ず、指定したテキストを精読し、コメントや疑問点等を考察したうえで演習に参加の事。なお、演習には、積極的な参加（報告、討論、質問、応答など）が要請される。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	社会構造, 現代社会, 地域社会, 地域問題, 社会問題,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	授業で取り扱うのは、地域社会学をベースとした研究成果である。大学院専門演習の一つとして、都市・農山村研究の近年の研究成果を紹介・検討する。大学院開講の地域社会研究, 学部開講の社会学, 現代社会学, 地域社会学, 社会調査論を受講しておくのが望ましいが、それを前提に受講を制限する訳ではない。		
授業の内容	<p>受講生の問題意識を明確化し、論文作成が可能になるように指導する。具体的には、</p> <p>1, 定住問題, 人口還流, 地域移動, マチ・ムラ作り, 地域活動, 地域福祉, 地域生活構造などの研究を検討する。</p> <p>2, 又、ポスト高度成長期の地域変動や地域問題に焦点をあて、最新の地域社会研究（地域社会学, 地域問題論, 地域計画論など）の動向に学ぶ。</p>		
成績評価の方法	演習での報告、討論が充実したものであれば、期末試験（ないしレポート）は実施せず、単位を認定する。演習での報告、討論が充実したものでなければ、単位は認定しない。又、場合によっては、期末レポート（ないし試験）を課すこともありうる。		
テキスト	学生のバックグラウンドが多様であることが予測されるので、初回の授業にて学生と協議の上、決定する。最新の学会誌や専門書籍から適宜、論文を選定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営戦略演習		
担当教員氏名(助手氏名)	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象。前期の経営戦略論の受講が必修。		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	持続的な競争優位、ポジションニング戦略、資源に基づく優位性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業の目的は2つある。第一に、受講者が代表的な経営戦略論であるポジションニング戦略と資源に基づく優位性について理解を深化させることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	本授業ではJ. B. Barneyの『企業戦略論』を教科書として使う。経営戦略論において代表的な理論であるポジションニング戦略と資源に基づく優位性について理解を深化させ、現実において企業の経営戦略にどのように実践されるかを理解できる。		
成績評価の方法	前期はグループとして各章についてプレゼンテーションを行い、理論の理解度や質疑応答などをもとに総合的に成績評価する。後期は特定企業の経営戦略を策定し、その内容をプレゼンテーションとして発表する形で総合評価する。		
テキスト	J. B. Barney 『企業戦略論』 ダイヤモンド社		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	組織行動演習		
担当教員氏名(助手氏名)	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	授業では、各自が所定の文献を講読し、要旨、著者の意図、疑問点、議論の発展の可能性などについて報告を行い、その後全員で討論する。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	組織的知識創造モデル、競争優位、知識変換、暗黙知、形式知		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本演習の主要な目標は、受講者が知識経営論に関する理解を深め、組織の競争優位構築プロセスに関する多様な経営現象や諸問題に対して、主体的に考察する能力を習得することである。		
授業の内容	組織的知識創造モデルによれば、企業におけるイノベーションの生成プロセスは、組織による能動的な知識創造プロセスとして捉えられる。組織的知識創造モデルの基本的前提は、次の4つである。(1)知識とは正当化された信念である。知識は、思索や実践を通じて自らのものになった情報であり、単なるデータや情報の集計ではない。(2)知識は、言葉や文章で表すことが困難で主観的な暗黙知と、言葉や文章で表現できる客観的な形式知の2つのタイプに分けられる。(3)人間の創造活動において、暗黙知と形式知は互いに作用し合い、形式知は暗黙知へ、暗黙知は形式知に変換される。(4)組織の知は、暗黙知と形式知という異なったタイプの知、そして異なった内容の知識を持った個人が相互作用し合うことによって創造される。演習では、組織的知識創造モデルの視点から、組織の競争優位構築における知識創造の果たす役割を考察する。		
成績評価の方法	出席、授業への参加度、および、課題発表を総合的に評価する。		
テキスト	教科書は、後日指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	無断欠席は認めない。		

授業科目名	地域マネジメント演習		
担当教員氏名(助手氏名)	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	教科書の輪読および討議。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	地域調査, 都市, 村落, 産業, 観光, 行政, アンケート調査, インタビュー調査, データ分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「地域マネジメント」を実効性あるものにするためには、理論を学ぶだけでなく、それを踏まえて現場で実践できる力を身につけることが不可欠である。本演習は、こうした問題意識のもとに、受講生が地域調査に関する実践的能力を身につけることを目標としている。		
授業の内容	テキスト『地域調査ことはじめ ― あるく・みる・かく ―』を受講者全員で輪読する。担当以外の者も事前に該当章を事前に通読しておく。最後に、各章の内容をもとに受講者全員でディスカッションをおこなう。		
成績評価の方法	発表や討議(ディスカッション)に対する積極性などの評価に基づいておこなう。		
テキスト	梶田真・仁平尊明・加藤政洋編(2007):『地域調査ことはじめ ― あるく・みる・かく ―』ナカニシヤ出版, 2,800円+税		
参考文献	溝尾良隆(2003):『観光学 基本と実践』古今書院, 2,600円+税 宮口イ同迪ほか編著(2010):『若者と地域をつくる 地域づくりインターンに学ぶ学生と農山村の協働』原書房, 1,905円+税		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	全回出席が基本。主体的に発表と討議をおこなうこと。		

授業科目名	管理会計演習		
担当教員氏名(助手氏名)	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。管理会計に関して受講生各自が設定したテーマに沿って用意した文献・資料に基づいて、報告をしてもらう予定です。その報告を踏まえて全員でディスカッションし、問題点を析出し、今後の研究課題を洗い出していきます。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(商業)選択		
キーワード	戦略, 利益管理, 予算, マネジメント・コントロール, 意思決定, 業績評価		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	管理会計学の領域における国内外の最新の研究成果を踏まえながら、受講生各自が問題意識を高め、研究課題を設定して修士論文を作成できるようになることを目標とします。		
授業の内容	<p>修士論文を執筆するうえで重要なこととして、過去に蓄積されてきた研究知見の中で、自分の研究がどのような部分に関わるものであるのかを整理し、その分野における研究知見を踏まえたうえで自論を展開することかと思えます。</p> <p>この授業では、この管理会計学の学際的な側面を意識しながら、レビュー論文の輪読を行い、各個別テーマにおける研究動向と主要文献についての大局的な理解を進めます。余裕があれば、受講生各自の研究が先行研究のどのような領域にかかわるのか、そのためにはどのような文献レビューがなされる必要があるか、という点を中心に、受講生全員でディスカッションをしながら検討していく予定です。</p>		
成績評価の方法	論文作成, 研究意欲, 出席状況などを総合的に評価します。		
テキスト	テキスト, 参考文献については追って指示します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	マーケティング演習		
担当教員氏名(助手氏名)	栗島 浩二		
研究室の場所	広島キャンパス1648研究室		
オフィスアワー	未定（メールで事前のアポイントをとってください）		
授業の形式・方式	対面授業、ワークショップ形式、プレゼンテーションなどの組み合わせで授業を行います。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象。 マーケティング論の科目履修は必修。		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	顧客満足、ビジネスプラン、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ブランド、サービス・マネジメント、営業戦略、競合分析、価格政策、マーケティング・チャンネル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングの理論に理解を深めるだけではなく、ディベートを行うことで自らの研究に活かせる演習を行います。		
授業の内容	理論的蓄積への理解と同時に、研究の独創性を強化するために以下のような演習を行います。1、マーケティングやドラッカーなどの基礎的な論文を読み、発表を行い、そのテーマについてディベートを行います。2、各人の研究テーマや関心に合わせてケーススタディを選び報告してもらいます。3、研究計画、進捗報告の発表と質疑応答		
成績評価の方法	出席点30点、授業への参加度20点、プレゼンテーションおよび最終提出のマーケティング戦略内容50点（合計100点）：ただ単に出席をしても評価は上がりません。積極的な議論への参加やマーケティングのアイデア、プレゼンテーション能力などを評価します		
テキスト	フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー[2008]『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント基本編第3版』ピアソン・エデュケーション 石井淳蔵、廣田章光編著[2009]『1からのマーケティング』（第3版）硯学舎		
参考文献	雑誌『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー』の掲載論文（適時）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業への参加だけでは授業の効果は十分ではありません。授業以外に各人で調べたり、プレゼンの準備や戦略策定などに時間が必要です。積極的な参加が求められます。また、演習と合わせて必ずマーケティング研究の科目履修をしてください。		

授業科目名	ファイナンス演習		
担当教員氏名(助手氏名)	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメールでアポイントメントを取って下さい）		
授業の形式・方式	対面授業。授業はゼミナール形式によって実施する。すなわち、授業中に配布する資料と論文に関する学生の報告、その報告に基づく討論が授業の中心になる。学生は、授業での報告、討議への積極的な参加、期末の研究報告が義務付けられる。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（商業）選択		
キーワード	パーソナルファイナンス、家計の金融行動、資産価格、資産選択、デリバティブ、ポートフォリオ理論、リスクマネジメント、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本演習の目標は、ファイナンス理論に関する理解を深め、各種公表データを用いて様々なファイナンス現象を分析・考察することである。この授業は、マネジメント分野の会計ファイナンス領域の演習科目であり、この研究領域の授業を同時に履修しておくことが望ましい。		
授業の内容	本演習では、ファイナンス論の中でも特にパーソナルファイナンスの分野を中心に、その理論とデータ分析を通じたファイナンス現象の理解を目指す。具体的には、金利・為替の理論、貨幣の時間的価値やポートフォリオ理論、資産価格決定理論、リスクとリターンに関する理論などについて学ぶとともに、近年の個人を取り巻く資金の流れや個人の金融行動の変化を、公表データを用いて分析・考察する。		
成績評価の方法	授業での報告と討議への参加度60%、期末の研究報告40%の割合で評価する。		
テキスト	授業中に資料・論文を配布する。		
参考文献	ルイス・J・アルトフェスト(2013)『パーソナルファイナンス（上）（下）』マグローヒル・エデュケーション<+9784532605315+><+9784532605322+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業は学生による報告および討議を中心に進めるため、受講者は事前に資料・論文を精読し、疑問点を明確にした上で、授業に臨むこと。		

授業科目名	応用確率システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661 研究室		
オフィスアワー	金曜日 9時～20時, 場所は担当教員室		
授業の形式・方式	対面授業である。授業日程に従って, 専門の論文を用いたセミナー, およびコンピュータを用いたシミュレーション, さらに受講生による課題発表を併用することにより, 授業を進める。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	確率システム, 不規則現象, システム同定, 状態推定, 確率的制御, 環境システム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	情報分野における授業科目の一つである。現実の現象は通常, 不確実な要因を含んでいる。したがって, 実際の経営情報学を理解し分析するには, 確率的な取り扱いが不可欠である。この授業では, 実現象をシステムとして捉え分析する, いわゆるシステム論的立場から, 各種方法論を現実の問題へ応用できるよう, 実践力の養成を重視した演習を行う。		
授業の内容	社会・経済・環境など, 実際の現象はさまざまな不規則要因を含んでいることから, その解析においては確率的取り扱いが必要になる。本講では, このような実現象を確率システムとして捉え分析するためのシステム同定, 状態推定および確率的制御の各手法について, 最新の研究論文の精読をとおして演習を行う。また, これらの方法論をいかに経営戦略に応用するかについて議論する。さらに, 現代の経営戦略においては, 環境コストを組み入れ考慮することが不可欠であることから, 特に, 確率環境システム(音・振動・電磁環境)を具体例として採り上げ, 研究課題を見出し, 研究を遂行し, 研究論文または研究レポートを作成できるように指導する。具体的には, コンピュータを用いたシミュレーションを行うことにより, 方法論の活用法や有効性について考察を行う。さらに, 現実の問題へ応用できる実践力の養成を目指し, 具体的課題に取り組みレポートとしてまとめ発表を行う。		
成績評価の方法	レポートと課題発表により総合的に評価する。		
テキスト	確率システムに関する最新の学術論文を教材として使用する。また, 必要に応じてプリントを作成し配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計学に関する基礎知識があることが望ましい。「応用確率システム研究」を受講しておくことが必須である。		

授業科目名	システム最適化演習		
担当教員氏名(助手氏名)	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532 研究室		
オフィスアワー	毎週木曜日 17:20から18:20まで、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、口頭発表と討論などを行う。場合によって、レポートなどを作成・提出する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	システム工学、情報工学、システムの最適化、動的システムの安定性、動的システムの可制御性と可観測性、経営システムの計画法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生に情報工学およびシステム工学に関する必要な数学的基礎を理解させることである。これによって、情報工学およびシステム工学の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学専攻の情報分野・経営科学領域に区分されている。		
授業の内容	情報システムおよび動的システムにおける必要な応用数学などを教える。特に、動的システムを記述するためによく使われている常微分方程式、偏微分方程式、確率方程式、差分方程式、及びそれらの方程式の解の求め方、フーリエ変換、ラプラス変換、数値解析法などを紹介する。さらに、大規模動的システムの解析手順の開発実験や動的システムを計画・運用するためのアルゴリズムを作成実験し、動的システムを最適に計画・運用するためのアルゴリズムの作成方法などを演習する。		
成績評価の方法	平常授業での口頭発表と討論、講義中に提出を求めるレポート、講義終了後に提出していただく総合的なレポートなどによって、総合的に評価する。		
テキスト	使用テキストを特に指定していないが、講義中に最新の学術論文と参考資料などのプリントを適宜に用意・配布する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。それから、C言語というプログラミングの知識を必要とする。		

授業科目名	知的生産システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	配布した資料に基づく対面授業とディスカッション形式を併用して授業を進める。また、必要に応じて適宜コンピュータを使った演習を実施することがある		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1, 2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	生産システム, 生産管理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生産システム論、生産情報システム論で習得した内容を含めた生産管理、生産システムに関する事項を演習を通して理解することを目標とする		
授業の内容	まず、生産システム論、生産情報システム論で習得していない分野を含めた生産システムの設計について述べる。その後、生産システムの管理・運営について述べる。生産システムの設計/管理・運営それぞれに対して演習を行い、必要に応じてコンピュータを用いた演習も行う		
成績評価の方法	出席及び講義中のディスカッションにおける態度、課題、レポート及び試験を基に総合的に判断する		
テキスト	各授業の開始時に講義資料を配布する。必要に応じて専門書及び最新の学術論文を利用する		
参考文献	特に指定しない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生産システム論、生産情報システム論を履修済みが望ましいが必修ではない		

授業科目名	視覚情報処理演習		
担当教員氏名(助手氏名)	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可 (研究室前に掲示)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に発表させる。学生は授業に出席し、宿題のレポートのテーマを決めるための文献調査等をおこなう。レポートのテーマを決めた後は、計画に従ってシステムの開発をおこない、それをレポートまとめ、発表することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	プログラミングとマルチメディア(特に画像処理系)の一般的な知識を有していることが望ましい。		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	コンピュータ・ビジュアライゼーション, コンピュータグラフィックス, Webプログラミング, 二次元グラフィックス, 三次元グラフィックス, データベース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、コンピュータの操作、動作原理、インターネット、マルチメディアの基礎知識を持つ学生を対象にして、実際に情報の可視化(コンピュータ・ビジュアライゼーション)やその応用システムを開発する演習をおこなう。 本科目の目標は、履修学生にコンピュータ・グラフィックスを主とした情報の可視化技法とその応用を実際にシステムを開発することによって理解させ、身に付けさせることである。本科目は、経営情報学専攻の演習科目の情報分野に区分されている。		
授業の内容	数値データを可視化するシステムを実際に構築することにより、そのプロセスとプログラミング技術を習得する。また、二次元グラフィックスと三次元グラフィックス表示可能なシステムを製作することにより、その処理の相違点、長所短所、それぞれに適した用途などについて考察する。さらにその応用として、インターネット上での次世代共通フォーマットであるXMLベースのグラフィックス記述言語(SVG)や、3次元モデリング・フォーマットである仮想現実モデリング言語(VRML)等を用い、Web上でのデータ可視化システムの構築が可能となるように指導する。 最終課題は、マルチメディアWebアプリケーションの開発を義務付ける。その開発の目的、手段、実際のシステム開発、ユーザテストまでを一貫しておこない、プレゼンテーションによる発表をおこなう。		
成績評価の方法	課題レポート(宿題)で評価する。レポートは文書としての提出他に、作成したプログラム、コンテンツなどを提出する場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合はメールで、それ以外は講義中にそれぞれ指示する。なお、課題レポートの点数の中には、授業中に数回実施する課題の発表(プレゼンテーションソフトを利用)も含まれる。特に最終課題の比率は高い。 なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合、1回でも課題レポートを無断で提出しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。		
テキスト	毎回の講義において、プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	演習内容をより深く理解するためには、『視覚情報処理研究』と共に受講するとよい。		

授業科目名	企業情報システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	岡村 雅仁		
研究室の場所	広島キャンパス 1567 研究室		
オフィスアワー	最初の授業のときに連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成して次回の授業開始時に提出し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象。		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	企業情報, 経営分析, 情報開示		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	企業情報を収集, 処理および活用までをシステムの利用者の視点から考察し, インターネットを利用し, 企業情報の見方や考え方を養うことを目的とする。		
授業の内容	内外の企業に関する経営情報の収集, 加工, 発信について, インターネットなどを用いて演習しながら, 経営比較分析を行う。具体的には次のとおりである。ワールドワイドに活動している企業が属する特定の業界をとりあげて, 国・地方公共団体, 中央銀行, 業界団体, 証券取引所などが提供しているマクロ・セミマクロ情報をインターネット等から入手し, また, ミクロ情報である企業の経営情報を日本が財務書類の提出から開示までの電子開示システムEDINET, 米国が同様のEDGARシステム等から収集する。次に, これらの情報を総合的に加工・処理して比較分析する。		
成績評価の方法	特定の業界をとりあげて, 日本企業, 外国企業の会計企業情報をインターネット等により入手, 加工, 分析した結果についてのプレゼンテーションを課し, その内容により評価する。		
テキスト	主として配布資料による。		
参考文献	授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。 ・可能ならば「財務会計研究」の履修が望ましい。 		

授業科目名	数理情報システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	竹本 康彦		
研究室の場所	広島キャンパス1649号室		
オフィスアワー	随時。ただし、面談は事前にE-mail等で予約すること。（場所：上記研究室）		
授業の形式・方式	配付資料に基づく対面講義形式とテーマに沿ったディスカッション形式を併用して、授業を進める。また、進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（情報）選択		
キーワード	数理的アプローチ，統計学，統計科学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	多様な視点から物事を観察して問題を発見し，これを解決することは貴重な能力である。これを習得・実践するにおいて，数理的アプローチは重要な役割を担う。この科目では，特に統計的方法に基づくデータ解析法について学習し，各種手法の適切な理解と習得に努めることを目標とする。さらに，これを実践するためのコンピュータ・プログラムの開発に挑戦する。		
授業の内容	この科目では，まず問題発見・解決のための科学的方法の基礎知識について概説し，役立つ情報をデータから抽出するための統計的方法の適切な理解と習得に努める。さらに，各種統計解析的アプローチについて学習し，事例研究を通じてその理解を深める。このとき，各種手法に関してこれを実践するためのコンピュータ・プログラムを作成し，事例分析を遂行する。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，課題，レポート，および試験をもとに総合的に評価する。		
テキスト	各授業の開始時に講義資料を配付する。ただし，必要に応じて，統計学に関する専門書，および最新の学術論文を利用する。		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	確率・統計に関する基礎知識があることが望ましい。		

授業科目名	意思決定システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1635研究室		
オフィスアワー	火曜日 13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	演習方式。3回を1つのサイクルとし、1つの課題を完成させる。3回のうち、最終回は演習の結果をまとめた上、発表してもらい、全員で討論する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	ファジィロジック、ラフロジック、GA、ファジィデータベース、データマイニング、インテリジェントシステム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本学の基本理念の1つは実践力のある人材の育成である。本科目の目標は、すでに習得した意思決定手法に関し、実習を通してその理解を深めた上、応用の力を向上させることである。本科目は、総合学術研究科・経営情報専攻の情報分野に区分されている通り、経営情報専攻の主要な科目の一つとして位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>不確かであいまいな情報の加工・処理に当たって、授業「意思決定システム研究」に習得した手法の演習をしながら、その役割と重要性を意思決定システムにおいて考察する。具体的な演習内容は次の通りである。ファジィロジックと意思決定、ラフロジックと意思決定、遺伝的アルゴリズムとデータマイニング、知的意思決定システムの構築。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%、授業態度及びディスカッション50%の割合で総合評価する。		
テキスト	資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は大学院生であるため、勉強意欲が何よりである。単位取得自体は簡単であるが、身に付けるべき知識の習得は努力次第である。		

授業科目名	情報環境システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、専門の論文を用いたセミナー、およびプロジェクト方式を併用して実施する。プロジェクトの課題は、Webアプリケーション関連のテーマまたは組み込み系ソフトウェア（マイコン制御プログラム）関連のテーマから選択できる。最終回に発表会を設け、受講生には成果報告の発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	情報環境, 情報技術, 情報家電, ユビキタス, デジタルデバイス, ネットワーク, データベース, Webアプリケーション開発, マイコン技術, 組み込み系ソフトウェア開発		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、情報化社会を支える情報環境システムに応用されている情報技術について考察を深め、実際にネットワークとデータベースを利用したWebアプリケーションあるいは組み込み系ソフトウェア（マイコン制御プログラム）を開発するプロジェクトを計画・実施する。本科目の目標は、情報環境システムの持つ目的と意義を理解し、それを実現するための具体的なシステム構築法について議論を深めるとともに実践力を身につけることにある。本科目は、経営情報学専攻の演習科目中の情報分野に区分されている。		
授業の内容	情報化社会を支える情報環境システムは、ネットワーク技術、データベース技術、組み込み系マイコン制御技術、無線通信技術など、さまざまな情報技術を基盤にして成り立っている。それらの要素技術は、システムの持つ目的を効果的に実現するために、最適に組み合わせ利用されなければならない。また、ひとたび情報環境システムが構築され利用されるようになると、アクセシビリティやヒューマンインタフェースの問題を中心としたデジタルデバイス問題がユビキタス実現途上の重要課題として浮上してくる。本講義では、授業「情報環境システム研究」で習得したシステム構築技術を基礎に、Webアプリケーションや組み込み系ソフトウェア（マイコン制御プログラム）におけるより発展的な課題について、それらの解決を試みるプロジェクトを計画・実施する。		
成績評価の方法	プロジェクトの実施状況と成果発表により総合的に評価する。		
テキスト	使用しない。専門の論文など、必要に応じてプリント資料を無料で配布する。		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プログラミングの経験があることが望ましい(C言語, Java, アセンブラなど)。情報処理技術者試験のレベルでは基本情報技術者区分以上の知識があることが望ましい。「情報環境システム研究」を受講しておくことが必須である。		

授業科目名	適応情報システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可) 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に専門分野での国際学術論文(過去のものから最新のものまで)を用いてセミナー形式で行う。具体的には、論文内容をまとめて課題発表したり、コンピュータシミュレーションを行って、論文の内容を再現したりすることで、研究能力を高め、視野をひろげることを目指す。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	情報通信システム, 適応システム, 適応アルゴリズム, 計算機シミュレーション, 適応理論の応用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この演習では、適応システムの基礎理論から最新のアルゴリズムまでを演習対象とするもので、まず適応システムの基本構成と基本アルゴリズムを理解させる。MATLABによるシミュレーションを通して基礎理論への理解を深める。基礎理論の理解を優先しながら、最新の適応理論、適応アルゴリズムとその応用についても学習する。		
授業の内容	情報通信、電力、環境、生体、経済・社会などのシステムにおいては、外部環境変化によりシステム特性が時間と共に変動するのがしばしばである。本研究では、情報通信システムを中心に、環境の変化に適応できるシステム構造を紹介すると共に、システムの性能を確保するための適応情報・信号処理アルゴリズムについて述べる。また、デジタル通信システムの等価器と能動騒音制御システムに関する最先端の研究開発も具体例として取上げる。		
成績評価の方法	プロジェクト実験形式を採用する。最近の英論文に提案されたアルゴリズムについてシミュレーションを行い、その結果を分析し、プロジェクト実験レポートとして提出させる。成績はプロジェクト実験レポートと出席状況を総合的に評価する。		
テキスト	授業の初日に提示する。		
参考文献	参考文献: ① S. Haykin, Adaptive Filter Theory, 3rd edition, Prentice Hall, 1996; ② B. Widrow & S. D. Stearns, Adaptive Signal Processing, Prentice Hall, 1985; ③ J. G. Proakis, Digital Communications, 3rd edition, McGRAW-HILL INTERNATIONAL EDITION, 1995; ④ A. Cichocki & S. Amari, Adaptive Blind Signal and Image Processing, John Wiley & Sons, 2003; ⑤ IEEE Trans. on Signal Processing; ⑥ IEEE Trans. on Circuits & Systems (2010-2014)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英文法を復習しておくこと。シミュレーションは時間をかけて行うこと。		

授業科目名	情報ネットワーク演習		
担当教員氏名(助手氏名)	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時。メールで予約してください。		
授業の形式・方式	演習科目。演習課題のような形で履修者が主体で行なう。各演習を開始する前に演習の目的、演習方法、注意事項等を履修者に説明する。授業時間内の演習及び時間外の演習(課題とする)で各課題を完成させる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象。 通年演習、「情報ネットワーク研究」を履修していること。		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	ネットワーク演習, 実験, セキュアなネットワーク, 通信プロトコル, サーバ/クライアント, TCP/IP (TELNET, FTP, SSH, POP, HTTP/S, IPv4, IPv6等), VPN		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本演習の目標は、ネットワークシステムの構築実験と開発実装を通じて現行インターネットを中心に高度なネットワーク運用管理技法だけでなく、近未来のネットワークにも通用する知識を履修学生に習得させることである。これにより理論と実践が有機的に結合してネットワークの運用管理及び研究開発に適した高度な人材を育成する。		
授業の内容	本演習は、「情報ネットワーク研究」と相補完して、実証・構築実験、開発実装などを通じて近未来の情報ネットワークに求められる技術を研究する。具体的にはIPv4及びIPv6などに基づいたネットワークの構築と運用(ルーティング管理, ネットワーク管理等), セキュアな分散データベースの設計・構築(https等), 情報機器の遠隔制御(VNC:バーチャル・ネットワーク・コンピューティング), 企業における本支社間或は営業所間のVPN(バーチャル・プライベート・ネットワーク)の構築技法, 情報セキュリティ, 暗号通信), オンライン情報システムなどについて高度な演習を行なう。		
成績評価の方法	演習課題50%, 期末レポート50%の割合で評価する。演習課題は、システムの実装・実験が完成した時点で宿題が完了したとする場合と、システムの開発実験・評価と共にレポートを提出する場合の二つの形式を取る。期末レポートでは、演習内容から総合的な論述問題を作成し試問する。		
テキスト	教科書は使用しない。必要に応じて演習資料を配布する。		
参考文献	必要に応じて指定する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	行き詰まりや失敗があっても挫けずに最後まで頑張ること、やり遂げた時の達成感を味わって頂きたい。		

授業科目名	数理最適化演習		
担当教員氏名(助手氏名)	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	学生は、授業に出席して、レポートを作成・提出すること。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象。 数理最適化研究を受講しておくこと。		
免許等指定科目	高専免(情報)選択		
キーワード	数理計画モデルの作成法。Excelによるソルバー機能。数理計画システムMPS。情報の多重暗号化。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	経営工学あるいは電気工学の問題として現れる各種の計画、設計、運用に適用される数理的な最適化の方法を演習する。これにより、数理的な最適化の理解を深めることができる。更に、情報の多重暗号化を考察できる。演習では、大規模でスパースな行列を念頭において、数理的な最適化を行う際に基本的な概念や理論的根拠となっている方法を理解できる。最適化のための情報処理システムを開発できる情報処理技術者の能力を養うことができる。		
授業の内容	最初に、既存ソフトウェアを使用する際の注意事項にふれる。次に、表計算ソフトウェアExcelのスパレッドシートによるソルバー機能を使用する。Excelの使用方法については、資料を配付する。また、市販されている数理計画システムMPSにより実際問題を解く。更に、最適化のソフトウェアを作成するために、アルゴリズムとデータ構造の実習を行う。また、情報を多重暗号化する。		
成績評価の方法	学生は、授業に出席して、レポートを作成・提出すること。		
テキスト	情報処理振興事業協会(IPA)、三菱総合研究所 著 「高度情報化人材育成教材 コンピュータ科学基礎 テキスト」 三菱総合研究所、1995年。		
参考文献	錦織昭峰, 優先順位を考慮した大規模な一般化割当問題のためのデータ構造とアルゴリズム, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J85-D-I, No. 2, pp. 122-131, 平成14年2月。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学部講義で、「線形計画法」等を受講しておくことが望ましい。		

授業科目名	最適システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可. ただし, 事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.		
授業の形式・方式	主に対面講義形式で授業を進める. ディスカッションおよびコンピュータを用いた実習も重視する.		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	ソフトコンピューティングプログラムの開発		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目の目標は, ファジィ理論, ニューラルネットワーク, 進化計算, マルチエージェント, アントシステム, 免疫システムなどのソフトコンピューティングの基本的な概念, 内容を理解し, 科学技術計算プログラミングを行うことである. これらの手法を通じて, 学習, 最適化を理解し, その応用ができるようにする.</p>		
授業の内容	<p>ソフトコンピューティングの基本的な手法について, アルゴリズムや数理モデルを用いて概説する. また, 関数最小化問題, 医療データベースの分類など, 具体的な研究事例を通じてその理解を深める. さらに, いくつかある手法のうちいずれか一つを改良するアルゴリズムを提案し, その性能を評価するためにコンピュータプログラムを作成し, 既存の手法との比較を行う.</p>		
成績評価の方法	出席, 課題, レポートにより総合的に評価する.		
テキスト	資料プリント, 学術論文を配布する.		
参考文献	市村匠, "ソフトコンピューティングのためのAndroidスマートフォン・インタフェース", 知能と情報, Vol. 23, No. 4, pp. 246-254(2011)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	微分積分, Javaプログラミングが必要となる.		

授業科目名	動的システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	重丸 伸二		
研究室の場所	広島キャンパス 1640研究室		
オフィスアワー	随時（事前に電子メールで予約を取ることが望ましい）		
授業の形式・方式	授業は演習形式で行い，受講生による課題発表およびディスカッションにより授業を進める。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免（情報）選択		
キーワード	動的システム，安定性，最適制御，ロバスト制御		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目ではシステム工学に関する数学的基礎を理解することを目標とする。時間の経過に伴って状態が変化するシステムを対象とし，そのモデリングや動特性について理解することを目指す。特に，システム内に不確かさが存在する場合の制御手法や，シミュレーション技法について学習する。		
授業の内容	動的システムにおいて必要となる基礎理論を学習した上で，学术论文等を題材として動的システムの制御手法について学習する。また，進度に応じて，動的システムのコンピュータシミュレーションを行う。		
成績評価の方法	授業での発表と討論およびレポート課題により総合的に判断する。		
テキスト	講義資料は別途指示または配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	応用情報システム演習		
担当教員氏名(助手氏名)	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に専門分野での学术论文を用いた輪講形式の授業を実施する。具体的には、論文内容の要約とその発表や、論文の内容と同様の環境を計算機シミュレーションを実施する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	高専免(情報) 選択		
キーワード	情報通信システム、計算機シミュレータ、無線ネットワーク、情報システム評価		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業では、応用情報システムの中でも無線通信技術を演習対象とし、対象分野における技術開発の最新動向ならびにその特徴について具体的な論文調査や計算機シミュレーションを用いて理解を深めることを目的とする。		
授業の内容	授業の前半の回では、主に各学生に割当た学术论文に対する輪講を実施する。輪講では、学术论文を要約したレジュメ(形式は第一回の授業時に説明する)とパワーポイント形式の発表スライドを用いて順番に割当論文の内容を発表する。授業の後半の回では、主に輪講で取り上げた論文に記載された無線ネットワークと同等の環境を再現した計算機シミュレーションによって論文内容に関する理解を深める。		
成績評価の方法	輪講での発表内容(レジュメと発表スライドを含む)と計算機シミュレーションを用いて作成するレポート内容をもとに総合的に評価する。		
テキスト	演習時に文献を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	統計モデリング演習		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可, 事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	配布した講義資料や参考文献をもとに対面形式の授業とディスカッションを形式で実施する。必要に応じて, 統計ソフトウェアなどを使った演習も取り入れる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科経営情報学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	統計モデル, 経時データ解析, 空間データ解析, 生存時間解析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	情報技術の発展によりデータ測定は手軽に可能になり, 多様化するデータから必要な情報を取り出すにはデータ分析が不可欠である。データ分析法は数多く存在し, その中から適切な方法を選択するには, データのもつ特性を十分に把握する必要がある。多様化するデータに対する適切な分析法の選択, または新たな分析法の開発に重点を置いて講義を行い, ソフトウェアを利用しつつ, 現実のデータを題材にデータ分析に関する実践力の習得を目指した授業を行う。		
授業の内容	データ解析法は多岐にわたるが, データのもつ情報の損失を最小限にしつつ効率の良い解析を行うためには, 解析対象のデータの特性に応じて, 適切な解析法を選択することが不可欠である。統計モデリング研究では, 同じ対象に対して異なる時間や条件で繰り返し測定した経時データ, 観測された位置情報も付与された空間データなどに対して, いかにしてデータの特性を統計モデルに取り込んで推測するかを研究する。本演習では, 実学データを用いて, データ分析に必要な一連のデータ処理の演習を行う。		
成績評価の方法	課題発表およびレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	講義資料や参考文献等は必要に応じて配布する。		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計学に関する基礎知識があることが望ましい。		